

■トラック3

どうやら私は、あなたのこと見くびっていたようですね。

あなたはまさに、私達サキュバスが探し求めていた
理想の射精係かもしれません。

射精量、体力、そして精子の質、
その全てが常人のそれを上回っていますし…
一口接種すれば、どんどん次を飲みたくなってしまう不思議な魅力があって…
こんな精子の持ち主は、あなたが初めて——

……は、はあ？
勘違いするのも、大概にしてください。
私が褒めているのは精子であって、あなたではありません。
そもそも、サキュバスが人間に欲情するわけないでしょう？

そんなことよりっ…

あなた、随分と余裕が戻ってきたみたいですね？
その様子なら、まだまだ射精出来ますよね？

……んふっ、いい返事ですね。

さて…いつまでも椅子に縛り付けているのも面白くないですし、
とりあえず、ベッドに移動しましょうか。

ん…どうですか？
拘束魔法を解除してあげたので、もう動けますよね？

……ん、問題なく歩行もできていますね。

では、こちらのベッドに横になってもらえます？

……ええ。それで問題ありません。

それでは私も…

ん、んう……

ふふっ。何を驚いているのですか？

せっかくベッドに寝転んだのに、

手コキだけなんてもったいないでしょう？

どうせ搾精するなら…

こうやって添い寝した方が、身体も密着できて…
より気持ちよくなれそうだと思います…？

ん、ほら…遠慮せずに、もっとくっついていいんですよ？

んっ…あ、ああ…手つき、いやらしい…。
いきなりおっぱいを触るなんて…本当に好きなんですね？

……ああ、そうだ。
なんなら、おっぱいを吸わせてあげましょうか。

その方がもっと興奮して…
さらに魔力の詰まった精子を出してくれそうですし…

……ふふっ、当然でしょう？
打算なしに私がこんなことするわけありませんよ。

……ん、ああ。
さあ、あなたの好きなマシュマコおっぱいですよ？
許可しますから、好きなだけ吸ってもいいですからね…？

……んふふっ。

早速、夢中になってますね。
必死になって乳首にしゃぶりついて…んふふっ、
こんなのまるで、赤ちゃんみたいですねえ…。

でも、いいですよ…？
そのまま、好きなだけ…おっぱい吸ってくださいね…？

……んっ、ああ、驚きましたか？

私達は人間とは違いますから…
妊娠なんてしてなくても、好きなタイミングで母乳を出す事が出来るんです。
といっても、人間の母乳とは違いますが。

……ええ、段々わかってきたじゃないですか。
そう、この母乳にも催淫効果があるんです。ですから…

……んふふっ。

ほら、またおちんちんがビンビンになってきましたよね？

このまま、またシコシコおっしてあげますから…あ、んう。
濃厚な精液、たっぷり共有してくださいねえ…？

シコシコ、シコシコお…あ、ああっ…あ、ああ、んっ…。
シコシコ、シコ、シコ…んあ、あ、ああ…んくっ、んう…。

はあ、はあ…んふふっ。
どうやら、かなり効いているみたいですね…？

早速、おちんちんも痙攣しちゃってますし…ああ、んっ、
喘ぎ声も、止まらなくなってきましたよ…？

ね…もう射精したくなってるんじゃないですか…？

……ああ、やっぱり、そうですね。
私の母乳を飲んでしまったんですから…
早くても恥ずかしがることはありません。

むしろ、ここまでよく持った方かと…あ、ああっ、んっ。
ですから…ここで一回、出しておきましょうねえ…？

んあ、ああ、あ、んう…ほら、出していいですよ？
さっきみたいに勢いよく、びゅっびゅううって出して…♪

んっ、あ、ああ…シコシコ、シコシコお…ああ、んっ。
シコ、シコ、シコシコお…はあ、はあ…あ、ああ、んっ…
ほら、出して…出してくださいっ…あっついザーメン、
私、くださいっ…！

んっ、んううっ…んあ、あ、あああっ…びゅっ、びゅうううう。
びゅるるっ、びゅっ、びゅううううっ…。

んっ、はあ、はあ…相変わらず、すごい量…♪

それに…んっ、れるっ、んれるっ、んちゅっ、れるう…
んっ…ふ、ふふっ…ああ、それに味も、素晴らしいですね。

何回出してもこの濃度を保てるだなんて…あ、ああ、
本当に、あなたは素晴らしいですよ…♪
んっ、はあ、はあ、はあ…あ、んう。

……え？

ま、まあ、興奮しているのは確かですね。

でも、仕方ないでしょう…？

こんな上質な精液を飲んでしまったら、
サキュバスならきっと誰でもこうなりますよ。

その証拠にい…

んっ、あ、ああ…。ここ、見えますよね？

おまんこから、とろおって愛液が溢れてきてるの…わかりますか？

……あ、あぁっ、んっ…もう、興奮しすぎですよ？

んっ、んう…鼻息が、くすぐったいです…。

……ん？ ああ、そういえば、そうでしたね。

童貞のあなたには、少し刺激が強かったでしょうか。

……ふふっ、よかったですね。初めて見るおまんこが私ので…

けど今回は、見るだけで終わりじゃないですよ…？

…あなたには特別に、この愛液を舐めさせてあげます。

……ふふっ、嬉しいですよ？

生まれて初めて、クンニできるんですもの…

でしたら…さあほら、寛大な私に感謝して…

サキュバスおまんこ、しっかり舐めてくださいね？

ふ、ふふっ…いい調子ですよ？

舌使いも、童貞にしてはなかなか上手じゃありませんか…

そのまま、私の愛液を飲み干してくださいね…？

んふっ…私の愛液、美味しいでしょう…？

舌の動き、止まらなくなってるの…わかりますよ？

んくっ、んう…飲み干せとは言いましたけど…

そんなに一気に飲んでしまったら…あ、ああ。

おちんちん、また勃起しちゃいましたねえ…？

しかも、さっきよりも硬く、大きくなって…
反り返ってますし…んっ、ああ。

…本当に、あなたには驚かされてばかりです。

では…そんなあなたには…
特別に、ご褒美エッチをさせてあげましょう。

……っ、こ、細かいことを蒸し返さないでください。
それに、別にこれはあなたを求めているわけではありませんからっ…
あなたが特別だから、ご褒美をあげているだけですっ…

と、というわけなのでっ…

ほら、ん、んう…
おまんこ、くばあって広げてあげましたから…
童貞のあなたでも、入れる場所がわかるでしょう？

早くその、ばっきっぱきになったおちんちん入れて…
童貞を卒業したらどうですか…？

さ、さあ…遠慮せずに…おちんちん、入れていいですよ？

んくっ…！ んあっ、あ、ああっ…あ、んんっ…。

ふ、ふふっ…これで、童貞卒業ですねえ…？
どうですか？ サキュバスおまんこに、挿入した気分は…

……んっ、ふふふっ。
とっても気持ちいいでしょう？

膣肉がおちんちんに、ねっとり絡みついて…ん、ああ、
入れただけで、ゾクゾクしてしまいますよね…？

でも、動かすともっと凄いですよお…？
膣内のヒダが、ぞりぞりいっておちんちんに擦れて…
んっ、はあ…

あなたは何往復耐えられるか、見物ですね…？

童貞卒業したてにしては、悪くないピストンですねっ…

それに、しっかりと奥まで届いてっ…。

っき、気持ちいいですよっ…。

このまま腰振って…いっぱい溜めた精子を、おまんこにどくんどくんって…
思いつき吐き出してくださいねえ…？　それが、あなたの役目なんですから…
んくっ、あ、あぁっ…あんっ、んうっ。

ほら、早く出してくださいねえ…？
刺激が足りないようでしたら、お手伝いしてあげますからぁ…。

どうですかぁ？　おちんちんとお耳、一緒に刺激されて…
脳みそ蕩けちゃいそうでしょう…？

我慢しなくていいですからぁ…
出したくなったら、いつでも射精していいですよぉ…？
生おまんこに中出しなんて、ここに来るまでは夢のまた夢だったでしょうし…
寛大な私に感謝してくださいねえ…？

……ふえっ？
べ、別に、感じたりなんかしてませんよっ…？

サキュバスのおまんこは、精子を搾り取るために最適化されてるので…
んっ、あ、あぁっ…自分の意思とは関係なく、
勝手に締め付けたりしてしまうだけでっ…んっ、んうっ。

おちんちん入れられて、喜んでるわけじゃありませんっ…。

つべこべ言っていないで…あぁ、んっ…
あなたはみっともなく、腰をへこへこさせていけばいいんですっ…。
んくっ、あ、あぁっ…

はぁ、はぁっ…き、きたっ…あぁっ、んっ。
おちんちん、どくどくうって…や、んんっ。
もう、限界なんでしょう…？　ほら、ほらぁっ…
おまんこに、びゅうううって出してっ…あんっ、あぁっ…
ほらほらぁっ…出してっ、出して出してえっ…！

んくっ…！　んっ、んぁっ、あぁあぁあぁっ…！
ひぁっ、んっ、んおっ、おっ、おぉおおっ…！

あ、あぁ…な、なに、これ…
こんなに気持ちいいの、は、初めてえ♪

ね、ねえ…まだ、出せるでしょう？

あんなに連射できたんですから、これで終わりなんてこと、
ありませんよね…？ んっ、ああ…。

……ちょっと、なに寝ぼけたこと言ってるんですか？
私が出せと言ってるんですから、さっさと立たせてください。
できますよね…？

まあ、出来ないと言っても無理矢理勃起させてあげますけど…♪

こうやって…騎乗位で、無理矢理腰動かしてあげたら…
嫌でも勃起してしまうんじゃないでしょうか…？

ほらぁ…この私が、奉仕してあげてるんですから…
しなびたおちんちん、復活させてくださいねぇ？

はぁ、はぁ…あっ、あぁっ、ふ、ふふふっ…。
早速、きましたねぇ…むくむくうって膨らんでくるの、
伝わってきますよぉ…？

んっ、ああ…

ふふっ…おちんちん、バッキバキですね？
これならまた、中出しセックス…できますよねえ…？

……では、次はこれを、私のお尻に入れてもらえます？

……おまんこだけじゃ、つまらないでしょう？
私のお尻は当然、未使用ですから…
アナル処女をあげるって言ってるんです。

……ふふっ…嬉しいでしょう…？

んっ…ほら、私は準備万端ですからぁ…

ヒクついてるお尻に、おちんちんみちみちいって入れてっ
さっきみたいに、ぱんぱんぱんって、好き放題にピストンして――

ひうっ…！？ んぐっ、んっ、お、おぉおっ…！
こ、これ、圧迫感すごっ…んおっ、おっ、おぉっ…

……はぁ、はぁ、私のことは、気にしなくていいですからっ…
奥まで入れてっ…
また腰、動かしてくださいっ…んおっ、おっ、おぉっ…！

き、きたあっ…！ こ、このままっ…射精するまで、
全力で、ピストンしてくださいねぇ…？

……な、なに泣き言を言ってるんですか。
ま、まあ…あれだけ連射したら、無理ありませんけど…

でしたら…
私の尻尾、あなたのお尻に突き刺して…
前立腺、刺激してあげますからっ…！
こ、これで、元気出してくださいっ…！

んっ…んおおっ、おっ、おほっ、おおおっ…！
あぁっ…ピストン、激しくなって…気持ちいいっ！
やっぱり、あなたもお尻好きなんでしょう…？
ほら、もっとお尻弄ってあげますからあっ…
本気ピストンで、お尻、突いてくださいっ…！

や、やっぱりこれ、すごっ…！
んおお、おお…お尻の奥、かき回されてっ…
頭が、変になりそうなくらい、気持ちいいっ…！

……あ、あぁっ、う、うるさいですねっ。
そんなの、見ればわかるでしょう…？
い、イッてるんですっ…あなたの勃起おちんちんでっ…
何回も、何回もっ…お、おおおっ、んっ、んううっ！

あ、あなたも、そろそろ限界、なんでしょう…？
いいから、このまま、お尻に出してっ…！
私のアナル、精子まみれにしていいいですからあっ…！
おっ、おっ、おおっ…今までみたいになっ…
たっぷり、お尻の中に射精、してくださいっ…！
そしたら私も…私も一緒に行きますからあっ！

おゝっ！？ んおゝ おおおっ…！？
おほっ…おっ、おおおおおおおおおっ…！！

い、いぐっ！ いぐっ…んおっ、おおおおおっ…！
おっほっ…んおっ、おゝ、おゝ おおっ…！

んおっ、おおっ…はあ、はあ…あ、あぁっ…んっ、おおっ。
こ、これ…気持ちよすぎますってえ…おおっ、んん…。

感じすぎて、意識、飛んでしまうかと思いました…はぁ、はぁ…。

あっ…あぁ、いつの間に、こんなに光って…
っ…もう、ここまで淫紋が光っては……

……み、見ないで…っ。これは…っ、違う…違うんです…！

この私がっ…上級サキュバスである、ルシカ・ヴェルディリスがっ…
こんな、下等なオスに屈してしまうなんて…
絶対に、あってはいけないことなのにっ…

……は、恥ずかしいに決まっているでしょう？
この状態を見られるのは、サキュバスにとっては恥辱なんですからっ。

…いいですか？
私のこんな姿を見たからには、もう絶対に逃がしません。

責任…取ってもらいますからね？
んふふっ…♪